トラベリング・エグゼクティブを中心するグローバリゼーション

神戸大学経済経営研究所
准教授　ベーベンロート，ラルフ
(BEBENROTH, Ralf)

現在、私は在日子会社におけるトラベリング・エグゼクティブについて研究している。現在までの主な研究では、子会社のある国で長年駐在している“expatriate”と呼ばれる海外駐在員は子会社の従業員と協力しながら、主体的に戦略的な経営を行っていることが明らかになっている。しかし、近年、従来の駐在役員による経営管理では相対的に高いコストがかかる一方で、それに見合う業績を上げることが出来ていない、また、駐在役員が海外にある子会社におけるビジネスの進め方に関する知識を、十分に持っていないという指摘がある。以上の点から、その存在意義に疑問が提示されている。その一方で、国際的な交通手段や情報通信網の整備にともない、新たなタイプのマネジメントが可能となっている。それは実際に多くの多国籍企業(MNC)における海外子会社で採用され始めている。その新しいタイプの一つが、「トラベリング・エグゼクティブ」と呼ばれる短期間のマネジャーあるいは技術者を、子会社のマネジメントに加えるという方法である。

既存研究では、長期の海外駐在役員(expatriate)に焦点を当てたものがほとんどである。海外子会社のマネジメントにおいて、彼らの果たす役割について研究が蓄積されてきた。その一方で、新しい海外子会社のマネジメントに関する議論は端緒についたばかりであり、トラベリング・エグゼクティブが、海外子会社において果たす役割や、expatriate との相違点等は十分に理解されているとはいえない。

したがってトラベリング・エグゼクティブによる、在日子会社における役割について調べることが必要だと思われる。まず、近年海外子会社において生じているマネジメントの変化、およびその背景について確認し、次に多国籍企業における人的資源管理の研究を整理し、具体的な検討課題を示す必要である。その上で、この検討課題について、ドイツ企業の在日子会社ではどのような状況なのか、アンケート調査を行い、統計的な分析が必要である。来年、以上の分析結果に基づいた論文を国民経済雑誌に掲載する予定である。